

窓の向こうに広がる税

小美玉市立小川北中学校3年 金子 愛依

「あそこが昇降口になるのかな。」

私が通う中学校の窓からは、建設中の新校舎が見える。来春から市内の小学校が合併し、中学校の敷地内で義務教育学校として歩み出すためだ。つい最近、整地が終わったと思ったら、現在は鉄筋がずらりと並び、コンクリート工事が始まっている。私はそのスピードと工程の多さに驚きながら、形になっていく校舎を見るのが楽しみになっていた。残念なのは、完成すると同時に卒業を迎える私は、新たにスタートする学校で学べないことだ。

これまで、校舎がどんな基準で造られ、鉄筋がどれだけ使われているのかなど、考えて生活したことはなかった。ただ、多くの関係者が携わり、大量の資材と細かな作業を見れば、莫大な費用がかかっていることは私にも想像できた。しかしその費用を生徒が払っているわけではない。税金で賄われていると知り、学校が建つ過程を一から見れたことは、とても貴重で、私に税の有り難みを考える良い機会を与えてくれた。

それだけではない。教室を見渡せば、教科書や机など身近にあるものから、学校生活に必要な光熱費にも税金が使われていた。今年からGIGAスクール構造で導入された一人一台タブレット端末や電子黒板も、私達の学習意欲を高め、より充実した授業が受けられる様、将来に期待を込めてくれている。実際に積極的に意見交換をし、自ら調べ学習に取り組む生徒が増え、勉強が楽しいと思える場面が多くなった。自宅でもパソコンやタブレットは使用しているが、決して安い値段ではない。では一体どれ位の税金が教育に使われているのだろうか。気になって調べてみると、公立の小・中学校に通った場合、九年間で一人当たり約八百万円以上の税金が使われていることが分かり、思わず声を上げて驚いた。

この様に、私達の周りには学校で過ごす日常だけでも、知識を得て注意して見てみると、実に多くの税金で支えられていると気付くことができた。恵まれた環境で学習できるのも、一生懸命働いた中から納めてくれた、大切な税があることを忘れてはいけないと思った。中学生の私にとって、直接払っている税と言えは消費税だが、人々が支え合い生活する上で、税は必要不可欠である。そこで他にも何かできることはないだろうかと考えた。

私は今生徒会本部で活動している。私の学校では生徒会が主催し、放課後に普段なかなかできない場所を念入りに掃除する活動に力を入れ、生徒が自主的に学校や通学路の美化に努めている。税金によって建てられた公共施設を少しでも長くきれいに維持することも、私達中学生にできる納税者の方に感謝を表すことや、ものを大事に使う精神に繋がると考えられる。ぜひ今後も引き継いでいきたい。

ふと、窓の外を見てほしい。温かな税によって作られた当たり前の日常や、輝かしい社会が広がっていることを実感できるだろう。